

第00号 2003・12

(スタイループンス・ジョンソン症候群)
のつ 患者を悩む病

連絡先 0424・82・1348



荒れ野に花を SJSだより

副作用被害か、利便性か 医薬品の販売解禁は闘議決定か

薬局・薬店以外でも医薬品を販売していることについて規制緩和に対しひば、薬剤師会・医薬品小売商業組合・薬種商協会などと共に、薬害被害者のつの患者が強く反対していた。

十月八日の厚生労働省の「医薬品の販売上特に問題がないもの」の選定に関する検証会¹では、日本チオーネストア株式会社本フランチャイズセンターの協会の賛成意見の他は、前記五団体であるて反対を表明した。

ところが、意見陳述人および参考人（製薬メーカー）からの意見聽取が終わったといひで、座長から薬局・薬店以外での医薬品販売解禁は闘議決定すべきであるとの発言があり出し、出席者一同から大いにさわめが起きた。「毎日新聞」（一〇〇三・十・九朝刊）によると、政府は今年中の薬局・薬店以外での「販売上特に問題のない医薬品」の販売解禁を闘議決定しており、検証会で十分中に対する品目を選定すべきであることが判断された。

この問題については、厚生労働省が慎重対応を主張していなかったのと受け取つたが、この検証会に出席した厚生労働省の医薬食品局長および審議官からなんの説明せられなかつた。

製薬メーカー（業者）の立場

内閣は同じであつても、医療機関回付と一般販売回付の説明（貼付文書、外箱）を区別して販売・流通・販売・輸出など、多くの問題にみられたよび価格競争なし経済的観点からハリストリブルヒはばかりだな。

薬剤師必備講への反論

一部委員からの医薬品販売解禁での薬剤師の情報提供に対する姿勢について、反省し改善を求めるべきではない、と必備講への反論が提起された。

厚労省への副作用報告の徹底

生労働省への副作用報告（今年度四月二十日の実施）を医薬品局に徹底する」と公約し、これは当然一般販売業者にも義務化すべりの仕様がいたるゆえ評価している。（以下患者の会を代表し意見陳述した湯浅和恵さんの発言略）

意見陳述人 遠浅 和恵

医薬品の副作用として、スタイループンス・ジョンソン症候群(SJS)を発症した私たたは、今回の医薬品に関する一連の規制緩和を絶対に受け入れない立場であるから。

のつには、医薬品の副作用の中でも最も重症なもの一つですが、これがこの詳しへスカーミッシュは解説でしません。したがつて予防法はなく、ただ薬からでも発症しています。そして初期症状が普通の風邪などと併せて見えたる早期診断早期治療がおくれて重症化し、由や肺・肝臓などに重く後遺症が残つたり、死んでしまうあります。

市販薬は医師の処方箋をもってなければ、認めて安全だと思えてくる人も多いようですが、実際は幅広いロードだ成分が含まれてこなた、それだけ危険性が高く、消費者に判断できるものではありません。われて、一口に消炎鎮痛剤・解熱剤についてもわれる重大な副作用の危険性を知らぬまま飲んでいたりするのです。それを消費者に選択をまかせるのは到底の上ばかり、薬剤師などの専門家の判断は不可欠だと思ふ。

のつの患者の会が今まで一貫して薬は適切に使用しない重大な副作用や事故が起つたことを周知徹底してほしいと懇願してきました。なぜ、今となって、他の方向に進むなければならないのですか。全く納得できません。



励ます会々員の兼子 富子さんが、再度放射線治療のため入院され、その直前までバザーに出す品を編んで寄付して下さいました。それを聞いた湯浅さんが、仲間に呼びかけ、見えない目で作った千羽鶴を届けて下さいました。

「のつの患者の会」小畠剛一代表と連携和恵さん、な
いびに北村栄昭さんと他「励ます会」は日本歯科医師会
を訪問。 (元四十八回) 歯科医師会におこりが、のつの
危険性と救済制度の周知徹底と理解と支援を要請し、
協力表明をしたたかないとがされた。

歯科治療中の発症危険性

- 歯科医師からの「のつの医薬品からの発症について
るのか」「どの程度・治療したりここのか」ところで
つに聞かれる間に合わない増えていた。 ●歯
科治療中に抗生物質などを使わなければいいから、万
が一、発疹などがあったときの早期判断・早期治療
など適正な処置を要請。 ●のつの重篤化について
て、エクストレージ「クローズアップ現代（六月十二
日放送）のレポート」で説明。
- 「救済機構への申請」「支給の協力要請」
●患者の医療リスクを追及してくるわけではなくので、
救済機構へ提出する医療証明書作成などして協力し
ていただきたい。 ●歯科医師会での諸々のことで、S
のつの患者の実態と救済機構の周知徹底をはかってい
ただいた。

歯科医師会の理解と支援を要請

歯科医師会は、昨速十回十五回の同窓機関紙「日歯
広報」に「患者の発達と悪化への対応原稿を掲載する
とともに」、「患者の会」も協力してほしい。
(註)は次回に掲載予定

「ジョンソン・ヘルペス」>〇・・・

かんむり発

「患者の会」関西フロッグより、初めてショッパン通
信の「かんむり版」を発信だ。

田 次

「かんむり版」(古園直江)

[特集] 京都府立医科大学眼科附属病院

角膜移植で光のをもつ一度「スマート・ジョン

ン症候群 アイバンク」

はんむり(国島嘉謙)

のつのを知る・学ぶ・ま
ークの記

受講者からのメッセージ

(植村和代)

編集後記

ジョンソン通信 Vol. 5
かんむり

かねじよつのつの患者救済活動に参加した小林
輝夫医師からの情報によれば、患者自身の生きた歯を
用いた人工角膜移植が日本で初めて成功したとのこと。
(「日経メテイカル」誌1002・9回記載)掲載された
もの興味を以てしてみる。

のつの患者への人工角膜移植の現状

のつのが重症化するの涙腺がおかされ、ドライアイ
となり、角膜がおかされ失明する。十数回も角膜移植
したのに成功しなじ、と患者は口をくわべて訴えて。
極度のドライアイでは角膜移植が適応しないといふ告
じであります。

歯根部利用人工角膜移植の初成功

日経メティカル誌によると、近畿大 福田 昭彦眼科
講師は、レンズ基台の作製を担当する同大学 口腔科
濱田 健助教授との協働による今年六月ついに日本で
初めて歯根部利用人工角膜(OKP)移植手術に成
功した。その患者の左眼視力が1・2、視野が40°
45°ほど回復した。

新技術への期待

現状では、眼内障や視神経の障害がなじいと、手術
後口腔内に影響が出るにとどめ、まだ制約があること
は否めない。今後、手術技法の改善・進歩と普及によ
り、多くの重症視覚障害者への福音となるよう期待し
たい。

のつの想対障害の問題と報道

歯根部利用人工角膜が初めて成功!

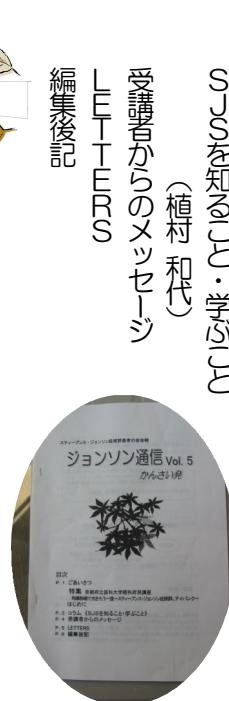


バザーのご報告

11月22日バザー当日は天候にも恵まれ、ご協力
いただいた沢山の方々のおかげで、大成功！でした。

品物を提供してくださった方 45人
お手伝いをしてくださった方 13人
収益金 154,180円 (現金カンパ 28,000円を含)
広報チラシ配布 250枚

ご協力ありがとうございました。



総選舉の直後、「患者の会」と「励ます会」は「これまでお世話をなった厚労省委員会の方々」に祝辞を述べる
てから、「患者の会」も協力してほしい。
(註)は次回に掲載予定